



図書館報

ぷらっつ



篠崎

063号

P2~P3 特集

「憧れの暮らし」

- P1 江戸川まいにんぐ
「江戸川区の水害」
- P4 そのメロディに魅せられて♪
「ひとつだけ」
- P4 スタッフのセレクション！
「我が家のヒミツ」



2019年読書週間標語 おかえり、栞の場所で待ってるよ

10月27日（日）から11月9日（土）は、「読書週間」です。篠崎図書館では今年も読書週間にちなんだ企画展示を行います。

読書週間特別展示

「ぽよぽよ、つるつる、何の本？ ～オノマトペで選んでみる秋の読書～」

10月29日（火）～11月29日（金）

ラッピングされた本には謎の文字。「ぽよぽよ」「つるつる」といった擬音語・擬態語が書かれています。実はこれ、本の内容やイメージをオノマトペで表現したもの。借りてみないことには、タイトルや中身はわかりません。書かれた言葉から予想して興味のある本を探し当てるのもよし、気に入った響きを選んで思わぬ本と出合うのもよし。開けてびっくり！の意外性を楽しんでみてはいかがでしょうか。大特集コーナーで実施します。

江戸川まいにんぐ 発掘 第63回 江戸川区の水害

5月に配布された「江戸川区ハザードマップ」がテレビ番組で取り上げられ話題になっていました。江戸川と荒川が氾濫した際、区内にとどまるのは危険とした表現はかなりインパクトがあります。

そもそも江戸川の水害の歴史は古くからあります。江戸時代には各河川の改修を行いましたが、度々洪水の被害に見舞われました。最も大きいものは安政3年（1856年）の大暴風雨で甚大な被害が出ました。それ以降では大正6年（1917年）に大津波による葛西村の被害で死者が220名と記録されています。大正9年

江戸川区内のイベントやスポットを、スタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

（1919年）に江戸川放水路、昭和6年（1931年）に荒川放水路が完成すると大きな被害が減少しますが、床上浸水は無くなりません。

江戸川区は縦横に河川や水路が流れ、区面積の約7割はゼロメートル地帯なので常に高潮や津波の危険に晒されている地域です。「ここにはダメです」という表現に賛否がありますが、区内に安全な場所がないのは確かです。広域避難のための周辺地域との連携が今後の課題になるのではないのでしょうか。

参考資料

『江戸川区水害[洪水・高潮]ハザードマップ 2019年』 江戸川区危機管理室防災危機管理課編 江戸川区 RK1-36-19 篠崎ほか所蔵
 『むかしの江戸川区』 江戸川区郷土資料室編 江戸川区郷土資料室 K1-21 篠崎ほか所蔵
 『江戸川区史 第3巻』 江戸川区区史編纂室編 江戸川区 K1-21-3 篠崎ほか所蔵
 『広報えどがわ 7/10 No.1918』

ライフラインマ篠崎特別編

バリアフリー映画会
僕らのごはんは
明日で待ってる

10月27日（日）

14時 開演（13時30分 開場）

場所：篠崎文化プラザ 講義室
定員：50名（事前申し込み制）
図書館カウンターまたはお電話にて受付中です。

無口でネガティブな亮太。太陽のように明るく超ポジティブな小春。二人が大学生になったある日、突然小春は亮太に別れを切り出す。実は小春は亮太に言えない秘密を抱えていた。出会いから7年、運命の恋が再び動き始める。日本語字幕＋音声ガイド付き映画の上映会です。

そのメロディに魅せられて♪

ひとつだけ(「はじめてのやのあきこ」収録)

矢野 颯子 忌野 清志郎 K1ヤ04486 篠崎ほか所蔵

この曲は、元々矢野颯子のオリジナルアルバム
の収録曲です。様々なアーティストにカバーさ
れていますが、中でも、忌野清志郎とのデュエッ
トバージョンは印象的です。こちらは、映画『し
あわせのパン』の主題歌に起用されており、映画

の脚本は、この曲にヒントを得て書き下ろされた
のだそうです。悲しい時は思い出してほしい、離
れていても心はあなたに寄り添っている一家族
や友人とそういう関係になればたら素敵だな、とこ
の曲を聴く度にあたたかい気持ちになります。

スタッフのセレクション!

我が家のヒミツ

奥田 英朗著 集英社 Fオ 篠崎ほか所蔵

篠崎図書館のスタッフが選んだ
おすすめ本を紹介します。

本書は、奥田英朗の『家日和』『我が家の問題』
に続く家シリーズ3作目となり、家族の事情を題
材にした短編集です。今どきの家庭が抱える問
題を、ユーモラスに温かく表現しています。

その中の一編「手紙に乗せて」は、24才の亨が
父親を案じる物語です。気ままな一人暮らしをし
ていた亨は、母親の急逝を機に実家に戻ります。
憔悴した父親が心配になったからです。妹と家
族3人大きな喪失感に襲われる中、亨は職場で
ある思いを抱きます。それは人の死に対して、同
年代ほど無関心であるということです。亨の印象
では、若い社員ほど、同僚の母親が死んだことに
無頓着で、最初は気の毒がっても3日で忘れると
いった感じなのに対し、年配の人たちは、みな一
様に同情の色が濃いのです。それも亨にではな
く父親に対してです。特に上司の石田部長は、
度々気にかけてくれます。

同僚たちの、普段と変わらない無邪気さに励ま

される一方、悲しみやわだかまりの消えない日々
が続きます。そして、かつての自分も同じであっ
たことを思い出すのです。中学生の時、父親を亡
くした同級生に配慮のない態度を取っていたこと
を。

誰かが傷ついているとき、同じ境遇でなければ
理解できないことは、たくさんあるのかもしれませ
ん。この話は、年齢を重ねることとは、相手を思い
やるとはどういうことかを示唆してくれるように思い
ます。亨はこの後、この同級生に再会し、彼の言
葉に慰められます。そして亨の父親もまた、息子
を通して石田部長のある行為に慰められます。

私たちが惑うとき、きっとそこには誰かの言葉が
あります。そして、みんな支えあって生きているこ
とにあらためて気づかされます。読後は清々しく、
家族や自分と関わる人をより愛おしく思える一冊
です。

編集後記

数年ぶりに再会した仲間と旅行に行きました。みんなの元気な様子に励
まされ、私も頑張るかと思いました。(ばるめりん) 過ごしやすいい季節に
なったかと思いきや、隣の千葉県は大災害となりました。江戸川区も水
害はひとごとではないですね。(ちゃしこ) 子供の頃は、台所の蛇口か
らコーラが出る家に住みたいと思っていました。(風雲ふわふわ丸)
面倒に感じることに楽しみを見つけて、毎日過ごしていきたいです。
(すずの木)

編集・発行：江戸川区篠崎図書館

住所：〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19

しのぎ文化プラザ内

TEL：03-3670-9102

[しのぎ文化プラザHP]内篠崎図書館ページ

<https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>